

## 会 議 録

会議の名称	平成26年度 第2回 所沢市地域福祉推進委員会
開催日時	平成26年9月1日（月） 14時00分 ～16時00分
開催場所	市役所高層棟7階 研修室
出席者の氏名	中島修（委員長） 神武恭子（副委員長） 岡村淳子 岡村英雄 小野慎二 小原共子 鬼澤一壽 小室民也 坂口葉子 柴井せん 鈴木四季 村上洋二
欠席者の氏名	内田喜久男 木村良孝 広瀬正幸
説明者の職・氏名	(株)地域計画連合 ■■■■■
議 題	(1) 計画策定の進捗について (2) 対象施策の整理について (3) 計画の骨子に関わる要点の整理について (4) その他
会議資料	【配布資料】 資料1 計画策定スケジュール 資料2 市民意識調査（アンケート）結果報告書（速報版） 資料3 対象施策の整理 資料4 計画の骨子に関わる要点の整理 〔当日配布〕 ・地域福祉市民フォーラム資料
担当部課名	福祉部 福祉総務課 地域福祉推進室 電話04（2998）9113 福祉部長 本橋 則子 福祉部次長 玉川 明男 福祉総務課長 北田 裕司 福祉総務課主幹 池田 康徳 福祉総務課主査 佐藤 尊之 福祉総務課主任 小古井 一樹 福祉総務課主任 石平 貴浩

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局 (池田主幹)	<p><b>1. 開 会</b> 開会を宣言した。</p>
中島委員長	<p><b>2. あいさつ</b> 第1回が6月3日に開催されてから、早いもので3ヶ月近く経過した。その間に、国の政策も大きく変わり、「医療・介護推進法」も成立し、介護保険制度も変わっていく状況にある。介護予防については、地域福祉に関連して、生活支援コーディネーターや、地域における社会福祉法人のあり方についての考え方なども出てきている。埼玉県下でも、このようなことに関連した研修も多く開かれており、関心が高まっている。一方で、このほど広島などの地域で災害も起きており、要援護者の避難誘導等についても、引き続き、考えていかななくてはならない。また、生活困窮者支援についても、同様に考えていく必要があるなど、課題は目まぐるしくあるが、委員の皆さまのご経験も踏まえて、ご意見をいただきたいと思う。</p>
中島委員長	<p><b>3. 議 題</b> まず、議題1について、事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局 (佐藤主査)	<p><b>1. 計画策定の進捗について</b> 事務局より、資料1～2に基づいて説明を行った。</p> <p>前回の会議では、市民意識調査（アンケート）を実施することと、その実施方針について説明を差し上げたが、7月中旬より、市内18歳以上の方を対象に、3,000件の調査票をお送りし、1,000件を超える回答を得ることができ、有効な票数を確保できたものと考えている。</p> <p>その結果の集計・分析作業を進め、速報版としてまとめたものが、事前にお送りした資料2「市民意識調査報告書（速報版）」であり、本編（資料2-1）と、資料編（資料2-2）の構成となっている。</p> <p>次いで、（株）地域計画連合より、資料2の補足説明を行った。</p>
地域計画連合	<p>今回は「速報版」として、設問ごとの単純集計及び自由意見を掲載している。今後、より詳細な分析として、クロス集計を行っていく予定である。</p>

	<p>まず、「設問の構成」（３ページ）は、調査の柱を１０本設定して、調査項目を構成した。</p> <p>内容については、問９「現在の様な近所づきあいをしていますか」では、「困ったときに相談したり助け合える人がいる」が、前回調査より若干増加している。</p> <p>また、問１０「近所づきあいについて、今後どうしたいか」（１０ページ）では、前回調査の選択肢に「近所の人とは親しく付き合うほどではないが、災害時・緊急時には助けあえるような付き合いはしたい」という選択肢を加えて調査を行った結果、約５０％の回答を占める結果となった。</p> <p>問２３「日常生活でどのような困ったことを抱えている人がいるか」（２０ページ）では、一人暮らしによる不安・買い物などの外出が困難・体力のいることができない状況などが生活課題として挙げた。</p> <p>問２５「支えあう地域づくりを進めていくために、どのような活動が必要か」（２２ページ）では、「地域の人が直接解決すること」という回答が大きく減っている一方、「何に困っているかを理解し、サービスや支援につなげていくこと」は、割合として前回調査よりも増加している。</p>
岡村(淳)委員	<p>続いて、岡村(淳)委員より、資料を配布のうえ、所沢市社会福祉協議会（以下、社協）主催による住民懇談会の説明をいただいた。</p> <p>７月から８月にかけて、市内１１地区のまちづくりセンターで住民懇談会を開催した。住民の方の参加は、延べ１６０名であり、他に、社協の地域福祉活動計画の推進委員２６名の参加があった。冒頭で、市からの説明、社協からの説明をした後、グループワークを行った。</p> <p>支援をする側、される側の区別なく、どちらも大切なのだという声が聞かれたのが印象的だった。また、身近なところで、居場所として地域サロンの必要性も認識したところであった。</p> <p>次いで、懇談会に参加した委員より、ご意見、ご感想をいただいた。</p>
神武副委員長	<p>自分の住んでいる並木地区の懇談会には参加できなかったが、柳瀬地区と山口地区の回に参加した。柳瀬地区では施設関係者等が多く、専門的な話が多かった。山口地区では、自治会関係者や民生委員の方が多かった。一番、印象的だったことは、活動したいというやる気のある男性がいても、実際に参加するまでのハードルが高く、活動に結び付かない点であった。若い参加者の方に、どうして自治会に入らないのか、活動に参加しないのかを聞くと、「生活が苦しいから」という答えがあった。生活にゆとりのある人だけがボランティア活動をする、ということではなく、誰でも、自分のできることが</p>

<p>岡村(英)委員</p>	<p>ら活動をできる社会になればよいと思う。</p> <p>上がった意見の中では、計画を進めていくという点に関連して、住民自身が計画との関わりを感じにくいというものもあった。今後、社協の地域福祉活動計画、市の地域福祉計画の双方に求められるのは、一人ひとりの市民もこれらの計画に参加しているという意識を高める工夫ではないだろうか。</p>
<p>柴井委員</p>	<p>参加してみて一番感じたことは、山ほど意見は出たものの、参加者の中に、いわゆる一般の市民の方が少なく、残念だった。また、自治会に参加しない人からの声として、自治会の役員が家に来るから嫌だ、というようなものもあった。そのようなことも含めて話し合えた点はよかった。</p>
<p>坂口委員</p>	<p>三ヶ島地区の懇談会に参加した。確かに一般の方の意見も聞きたかったところだが、当日、天候が悪かったことも影響したのではないか。一方で、専門職の方の参加が多く、こういった機会をとらえて、熱い思いをお話しされていてよかった。参加されていたのは、色々な会議で顔を合わせる事の多い方々であったが、改めて「自分たちの暮らす地域がどのようになればいいのか」という点についての想いは同じだと感じた。今回のような機会が、年に何回かあればよいと思った。</p>
<p>小室委員</p>	<p>富岡地区の懇談会に参加した。参加者の中で一番多かったのは、民生委員の方であった。顔なじみの方が多く、一般の方の参加が少なかったので、少し発言しにくいような雰囲気も感じられた。報告のあったとおり、参加者の総勢は延べ160名と、人数だけ見れば多いが、住民の意見を広く吸い上げるという意味では若干疑問もある。もっと一般の住民が参加できたらよかったと思う。しかし、議論自体は活発であり、自身としても参考になることが多かった。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>今回のような住民懇談会では、地域の方々に多く集まってもらうことが基本となる。自治会の方や民生委員の方などに加え、いわゆる一般の住民の方にも参加をいただき、様々な声を吸い上げることができるか、一方で、自治会や民生委員の方々の、普段の活動はどのようなことをされているのか、ということ把握していくことも重要である。広く市民の方の意見を反映させるということについては、アンケート調査の結果との組み合わせも含めて、考えていきたい。</p> <p>次いで、事務局より、7月27日(日)に開催した「地域福祉市民フォーラム」の報告を行った。</p>

<p>事務局 (佐藤主査)</p>	<p>当日のプログラムとしては、中島委員長による基調講演と、パネルディスカッションを行い、パネリストとして、岡村(淳)委員、岡村(英)委員、小原委員にも登壇いただいた。60名ほどのご参加をいただき、盛りだくさんの内容で、時間が足りなかったとの感想もあった。委員長からは、基調講演にあたり、豊富な資料をご準備いただいたので、委員の皆さまにもぜひご覧いただきたく、改めて資料としてお配りした。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>今回のフォーラムの論点の1つは、現行計画の評価と、第2次計画の目指す方向性であった。パネリストそれぞれのお立場からのご発言もいただく中で、岡村(英)委員からは、昨年度、地域福祉推進検討委員会から出された提言書を引用しての、これまでの取り組みの説明があった。そして、社協や民生委員、また地域で活動するNPOの立場からのお話もいただき、今後、各関係機関がどのようにつながっていくのかということや、現在、地域で活動しているいくつかの会議のあり方なども含め、地域のネットワークの関係性も整理できればということもお話した。もう1つの論点としては、「(仮称)所沢市総合福祉センター」で担う予定の、総合相談機能である。さらに、このような計画の策定が情報として相手(市民)に伝わっているかも重要であり、このフォーラムも含め、様々な機会をとらえてアピールしていければと思う。</p> <p>次に、事務局より、前回の委員会で鬼澤委員から質問をいただいた、「所沢を動かすみんなのアイデアコンテスト」での、大規模団地等における独居老人の見守り対策について回答を行い、続いて、今後の計画策定に関連したスケジュールを説明した。</p>
<p>事務局 (佐藤主査)</p>	<p>9月中に、関係団体向けヒアリングの開催を予定しているので、委員の皆さまにもご協力をお願いしたい。その後、11月に、市主催の地区別市民懇談会を予定している。ここでは、7～8月に開催された社協主催の懇談会の結果も反映しながら、次期計画の骨子案を踏まえ、地域でどのような取り組みができるのかについて、議論する場として考えている。ぜひ委員の皆さまにもご参加をいただきたい。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>市民意識調査の結果を見て、課題として捉えなければいけないこととして、問23「日常生活でどのような困ったことを抱えている人がいるか」(20ページ)を見ると分かるように、経年比較において、10年前よりも「一人暮らしで、不安や心細い思いをしている人がいる」の割合は増えている。すなわち、地域における課題は増えていることができるが、一方で問25「支えあう地域づくりを進めていくために、どのような活動が必要か」(23ページ)では、「地域の人が直接解決すること」という回答が大きく減っている。つまり、地域における課題は増えている一方で、地域におけるつながりは減少している、ということを受け止める必要があると考えられる。</p> <p>また、どのような計画であっても同じ傾向があるものだが、第1次計画よりも第2次以降の計画の策定は盛り上がらないことが多いため、意識して気運を盛り上げていく必</p>

<p>小室委員</p>	<p>要があると思っている。</p> <p>市民意識調査の結果に表れている数字について、何かご意見はあるか。</p> <p>問10「近所づきあいについて、今後どうしたいか」（10ページ）の結果にはがっかりした。「近所の人とは親しく付き合うほどではないが、災害時・緊急時には助けあえるような付き合いはしたい」という回答が50.1%となっているが、普段の付き合いがあつてこそ、災害時・緊急時の助け合いができるものだと思う。基本となる、助け合いの意識が薄れてきているように感じた。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>現在、いわゆる「ソーシャル・キャピタル」（支え合う力）が下がってきていると言われるが、所沢でも同じ傾向にあるのか、という点については、この市民意識調査の結果データを分析する中で見ていきたい。現行計画の取り組みを踏まえて、様々な視点から、次期の計画に何を盛り込むべきなのか、委員の皆さまと考えていきたい。市民意識調査については、後ほど、改めて議論をしていきたい。</p> <p>では、続いて議題2について、事務局から説明をお願いしたい。</p>
<p>事務局 (佐藤主査)</p>	<p><u>2. 対象施策の整理について</u></p> <p>事務局より、資料3に基づいて説明を行った。</p> <p>資料でお示したような形で、現行計画の進捗管理を、平成17年度から継続して実施してきた。市の施策のうち、地域福祉の考え方に基づく事業を洗い出し、毎年度、一覧化した上で、地域福祉推進検討委員会に報告してきたものである。現在は、延べ170ほどの事業の進捗を管理しているところだが、次期計画の策定にあたっては、少し絞り込みを行おうという視点から、整理を試みたものである。併せて、計画の体系についても見直しを行うこととし、対象事業の分類をもとに、資料4でお示する基本方針・施策の内容と一致するように、事業の対応を整理した。ここでは、事務局として、地域福祉計画の進捗をはかるものとして積極的に関わりをもつべき対象として、62の事業を抽出したのとなっている。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>ご説明のあった資料3については、現行計画の取り組みを踏まえて、今後の進行管理が見えるようにするという意図で、このように資料に整理したものである。</p> <p>では、引き続き、議題3について、事務局から説明をお願いしたい。</p>

<p>事務局 (佐藤主査)</p>	<p>3. 計画の骨子に関わる要点の整理について 事務局より、資料4に基づいて説明を行った。</p> <p>これは、第1回の委員会で資料として配布した「市民意識調査の実施方針」にもあったおりの「第2次地域福祉計画に向けた課題の着眼点」を前提に、本日、速報版としてお示した「市民意識調査結果の分析」や「市の現状・地域課題の整理」や、議題3でご説明差し上げた「対象施策の整理」も踏まえて、資料4の右側にある「基本方針」「施策群」「取り組みのイメージ」などを導き出す形となっている。今後、この委員会の中で「計画の骨子」を考えていく上でのたたき台の資料として、お示したものである。</p>
<p>地域計画連合</p>	<p>配布した資料4の内容を、計画素案の基本的な考え方として、今後、進めていきたいと考えている。</p> <p>まず、「第2次計画を取り巻く動向・課題について」であるが、①前期地域福祉計画の総括をふまえた方向づけ、②地域の支え合い（共助）の総括、③関連分野からの地域福祉への要請への対応、④新たな社会動向への対応という4点で整理している。</p> <p>基本理念は、現行の「豊かな心で健やかに暮らせる支え合いのまち」、また、第5次総合計画後期基本計画の地域福祉の施策目標である「互いの顔が見える、地域でみまもり支えあえるまち」を掲げている。</p> <p>「地域における新たな支え合い（共助）の確立」としては、役割及び圏域を設定する。資料では、基本方針（3点）・施策群（10本）・取り組みのイメージ（例示）を示している。なお施策群9（生活困窮者支援）・10（災害時の安全）は、今回、新たに設定している。</p> <p>また、「今後6年間で実現する重点的な事業」については、施策横断型のプロジェクトを想定している。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>説明を補足すると、平成19年に災害時要援護者支援体制の構築について、今年3月には生活困窮者の自立支援について、それぞれ地域福祉計画に位置づけるよう国の方針が示された。これらの視点は、現行計画には無いものであり、そのため、今回、新たに盛り込まれている。</p> <p>また、今回は、所沢市における「圏域」のイメージ図は示さなかったが、現行計画では、11地区を単位として位置づけ、現在の各まちづくりセンター単位で設定した。総合計画の後期基本計画においても11地区を基本としていることも踏まえ、第2次地域福祉計画では圏域の考え方をどのように位置づけるのか、検討が必要である。</p>
<p>小室委員</p>	<p>圏域の考え方として、11地区についての話があったが、社協の住民懇談会で出ていた意見の中に、富岡地区は広すぎて、距離が遠いことも理由にまちづくりセンターを利用していないという人がおり、地区の設定として無理がある、という主張があった。こ</p>

	<p>のように、広めの地域については、細かく分割することを考えないといけないのではないか。</p>
中島委員長	<p>例えば、小手指地区においても、小手指公民館分館を設置しているように、富岡も大きな地域なので、そのような議論が出るのは当然とも考えられる。他にご意見はあるか。</p>
神武副委員長	<p>資料4の「第2次計画を取り巻く動向・課題」の欄で、「地域の支え合い（共助）の総括」の「多様な活動の実態と課題」の中に「コミュニティビジネスなどによる民間企業の社会貢献活動を促進する必要が…（以下略）」とある。計画の中に「コミュニティビジネス」という言葉が出てくること自体はすごいと思うが、コミュニティビジネスは主にNPOが担うものだと思うので、表現を訂正していただければと思う。</p>
中島委員長	<p>コミュニティビジネスは、通常、民間企業が取り組みにくいような狭間の課題に対し、地域のNPO等が取り組んでいくという性質のものなので、誤解がないように表現を改めたい。他にはいかがか。</p>
鬼澤委員	<p>資料4の「取り組みのイメージ」の中に、「大人から子どもたちへのあいさつ運動」とあるが、これは、ともすれば犯罪を誘発する側面もあるのではないか。</p>
中島委員長	<p>地域福祉の領域では、あいさつは積極的に行おうという方向性があり、また、地域の中で交わされるあいさつが多い地域は、犯罪も少ないと言われている。そのような意味も含めて、増やしていこうということではないか。</p>
鬼澤委員	<p>あいさつを増やすのはとてもよいことだと思うが、実態としては、今、近所で、学校に通う子どもたち等から、あいさつの声あまり聞こえてこないと感じている。極端に言えば、あいさつをすることが地域の平穏を乱すというような意識を持つ人も、中にはいるのではないか。そういった実態との調整も、視点として必要ではないか。</p>
中島委員長	<p>私の住む花園地域では、高齢者の方が、児童の登下校時に、スクールガードや見守り隊などで声かけを行う取り組みをしている。他の委員の地域ではいかがか。</p>
小野委員	<p>私の住む松井の谷戸崎地域では、「スマイルロード」として、のぼり旗を立てて、あいさつ運動をしている。継続して声を掛け合おうと取り組んだ結果、子どもが自らあいさつするようになったという実感もある。</p>
鬼澤委員	<p>昔、自分が住んでいた地域では、子どもに対して、よくうるさいなどと言われたことがあった。所沢ではそういうことがなければよいのだが。</p>

中島委員長	先日、地方を訪れた際にも、声を掛け合う人たちがたくさんいることで、地域全体の関係が良好なものだと感じた。所沢にも、まだまだ子どもをあたたかく見守る地域性があるのではないか。
小室委員	富岡地区の私の住む場所では、子どもたちの方からあいさつをしてくる。ただ、立っていたのぼり旗に、「毎月15日はあいさつデー」と書いてあったのだが、これについては違和感があり、あいさつは毎日するものだろうと感じていた。いずれにしても、もっと地域で全体的に取り組んだ方がよいと思う。
中島委員長	ありがとうございました。他にご意見などはあるか。
坂口委員	三ヶ島地区では、昨年度、50代の男性で2名の孤立死と思われる事例があった。今年度も2名の事例があり、8月に、64歳の男性が1名亡くなられたのと、もう1名は、70代の方で、地域包括支援センターや民生委員などにも相談があった方だった。実態として、地域包括支援センターや民生委員が関わることのない、65歳未満で独り身の男性で、生活難の中でライフラインを止められて孤立死をしているケースが多い。地域全体で見ると、むしろ65歳未満の独居の市民の方で、どの組織でも情報が無く、また、自ら情報発信をすることもできないような方をどのように支えあっていくのかが、地域包括支援センターとしても大きな課題となっている。
中島委員長	非常に重要な指摘をいただいた。国全体でも大きな課題として捉えており、東京23区内でも、UR（都市再生機構）を通じて調査を行っている。その結果を見ると、孤立死した人のうち64才以下の方の割合は4割となっており、このような人たちをどのように見守っていくのかという視点で考えると、今までのように、年齢で線引きをしていた方法を、見直すべきではないかという議論もなされていて、新しい地域福祉の課題のひとつにもなってきている。市民意識調査の結果でも、問35「日頃、経済的な理由で生活が苦しいと感じること」（30ページ）で、「貯蓄がほとんどできない」人、すなわち、何かあったら大変だと感じている市民が約4割いる点が気にかかる。あわせて、逆に、高齢であっても元気な人、すなわちアクティブシニアが、見守りなどの担い手として関わっていける仕組みも必要ではないかと考えられる。
小野委員	市民意識調査の結果を見ると、市の情報を知らない人が多すぎると感じる。今月号の広報とろざわに、私が行っている「高齢者みまもり相談員」の活動の様子が写真で掲載されたが、身近な人では誰も気が付いていなかった。広報自体は目にしているのだろうと思うが、活字が頭の中に入っていないのではないかと思う。また、「高齢者みまもり相談員」に関して、自由記述で「一度も見守りに来てくれない」という趣旨の意見があったが、見守り自体は、本人の来てほしいという意志表示が無い限り、こちらから出向くことはできない。これは、取り組みがどのようなものかが伝わっていない一例であ

	<p>るが、このように、まずは基本的な情報の伝達などができていないと、どのような取り組みをしても効果が薄くなってしまふ。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>高齢者や障害者の方にとっては、文字を読むことに困難を伴う場合があります、また、若者も活字離れが進んでいる。新聞を取る人も少なくなっている中で、市の広報なども読まれていない傾向にあるのではないかと。このような、伝えているはずの情報が伝わっていないという現状に対し、例えば、ある自治体では、5人以上の方が集まる説明に向くという事業を行っているという話を聞いたが、同様に、市から情報を発信する取り組みなどはあるか。</p>
<p>事務局 (北田課長)</p>	<p>市では、出前講座という制度がある。生涯学習推進センターが窓口となり、福祉関係の内容であれば、福祉の担当者が出向いて説明に行く事業である。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>実際に説明をしてくれると分かりやすいと思うので、そのような事業をさらにアピールしていただくとよいと思う。他にはいかがか。</p>
<p>柴井委員</p>	<p>情報を知る、ということについては、ボランティアサークルで行っている食事会に、地域包括支援センターの職員の方に来ていただき、介護保険制度や緊急通報システムのこと等を話してもらっている。また、見守りについては、「健常者だから見守りができる」あるいは「障害者、高齢者だから見守りができない」とは思っていない。できる範囲のことから、例えば、友達同士と一緒に病院に行くというように、小さいことからでも取り組んでみようということ働きかけている。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>とても大切な意見を頂いた。先ほどの住民懇談会の報告でも、社協の岡村(淳)委員から、「双方向」の支援が大事だとの言葉があった。地域福祉計画の中でも、障害のあるなし等に関わらず、それぞれの市民が相互に見守る、ということが重要だと思う。 このことに関連してご意見はあるか。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>資料4の「取り組みのイメージ」の中に書かれている「障害者との交流」という表現には、違和感をおぼえる。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>「交流」というと一方的な表現にも聞こえるが、互いに「双方向」であるという意味で、よりよい表現にできるとよいのではないかと。</p>
<p>神武副委員長</p>	<p>鈴木委員が言われた意図は、障害者が特別な存在ではなく、地域には色々な人がいるということではないかと。また、見守りについては、地域活動支援センター・ドゥークルの活動の一環として「ティールームぷらっと」というお店を開いているが、そこには、高齢者の方も障害者の方もおり、配偶者を亡くした女性が食事に訪れたりもする。そう</p>

中島委員長	<p>いった中でコミュニケーションをはかり、また、普段来ている人が来ていないと心配して確認を取ってみたり、というように、何気ない形での見守りの活動をしている。そういう意味では、地域の「居場所」づくりが重要であると思う。</p> <p>「障害者との交流」という表現については、障害のあるなしに関わらず、双方向の関わりという意味を込めたものを考えられればと思う。また、「居場所」については、空き家を活用した取り組み等も出てきており、大切な視点である。他にはいかがか。</p>
岡村(英)委員	<p>地域福祉の拠点に関連して、例えばその施設がバリアフリー化されているか、というだけでなく、その施設を利用する際に使いやすいかどうかが重要だと思う。資料3の2ページに「余裕教室の有効活用の推進」(No. 9-14)とあるが、「老人簡易集会所わかば」(No. 9)については、地域福祉の視点で、地域の拠点づくりとして意図するものとは意味合いが違うのではないか。対象とする事業について、もう少し検討した方がよいと思う。</p>
中島委員長	<p>単に、既存にある施設などを「拠点」として位置づけるだけでなく、地域福祉の観点から、もっと積極的に位置づけを考えるべきではないか、という意見だと思う。ちなみに、総合計画などで、積極的に拠点整備を打ち出している事例はあるか。</p>
事務局 (北田課長)	<p>例えば、高齢者福祉の分野では、UR(都市再生機構)の店舗を活用してサロンを開設したような事例がある。</p>
神武副委員長	<p>松葉町には「ゆうゆう松葉」というサロンがある。介護者サロンという位置づけで、介護される側の高齢者の方だけでなく、介護する側の方も利用している。また、柳瀬地区でも子どもや保護者の方が参加している活動が行われている例があり、地域福祉においてのサロンと位置づけてよいのではないか。</p>
中島委員長	<p>ご紹介のあったように、高齢者に限定しているものもあるにせよ、地域における拠点づくりの取り組みとして、いくつか事例があるということができる。他にご意見はあるか。</p>
岡村(淳)委員	<p>この計画は、まず市民の方が理解できる必要があることから、皆で共有できるように「分かりやすい計画」であるべきだと思う。色々な施策をつくることも大事だが、より取り組みがしやすいように、例えば一人ひとりの役割などを分かりやすく書いていかないと、実際に地域の皆で取り組むことは難しいのではないか。「現状はこうで、将来はこうなる」、「地域の役割は〇〇、住民の役割は〇〇」、「目標としては3年後に〇〇」など、将来像や役割分担、取り組むための目標などがイメージしやすいものがよいと思う。</p>

<p>中島委員長</p>	<p>ご意見のあったように、行政、あるいは専門職だけが理解できるような計画ではなく、市民の皆さんが自分の役割がイメージできるような、誰もが理解しやすく、また関わりやすい計画にしていきたい。</p> <p>色々のご意見をいただいたところで、ここで今後の進め方について一つ提案をさせていただきたいのだが、中身の細かいところについて、詰めた議論をするために、有志で作業部会を立ち上げてはどうだろうか。皆さんのご意見をお聞きしたい。</p>
<p>神武副委員長</p>	<p>計画は事務局だけで作るものではなく、やはり「市民参加」という観点からも、より多くの市民が計画策定に関わるべきだと思うので、私は関わっていききたいと思う。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>自身が関われるかどうかはひとまず置いておくとして、作業部会を立ち上げること自体には異議はないか。</p> <p>(委員より異議なし)</p>
<p>中島委員長</p>	<p>では、異議なしとして、作業部会を立ち上げることにする。まずは、次回の委員会までの間に開催することとして、日程等については事務局で調整をお願いしたい。</p> <p>さて、ここまでに、重要な論点がいくつか出された。「双方向で見守りをしていく」ということ、「65歳というような年齢で線引きをしない」という考え方、「市民が関わりやすいような分かりやすい計画」、さらにはアクティブシニアの活用などが挙げられた。</p> <p>これらも踏まえ、各委員からご発言をいただきたい。</p>
<p>小原委員</p>	<p>活動に出てこられる人はいいが、問題は活動に出てこられない人である。そのような、行政の情報を得にくい人たちが、見守りの対象から漏れないようにしていく必要があると強く感じている。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>今のご意見に関連して言うと、地域の方が行政の情報を得にくいということだけでなく、行政側でも地域の方の情報を得にくい場合もある。実際に地域で活動している方々の力が、今後必要になってくる。他にはいかがか。</p>
<p>村上委員</p>	<p>国立障害者リハビリテーションセンター（以下、国リハ）では5年に1度の中期目標を立てており、次期の目標を検討中である。その中で、「地域貢献」を検討しているので、これから策定される第2次地域福祉計画の中でも、国リハとの連携も入れていただければと思っている。また、約10年前に策定された現行計画には、災害時要援護者支</p>

<p>中島委員長</p>	<p>援や生活困窮者自立支援などの新しい視点が反映されていないとお話があったが、例えば、並行して策定作業が進んでいる障害者支援計画では、PDCAサイクルを取り入れて、計画内容の見直しや調整を進めるように努めている。</p> <p>国リハとの連携について言及していただき、とても嬉しく思う。若い人のための精神科があるのを始め、とても魅力的な、様々な資源があり、地域としても活用を期待しているところだと思う。計画を見直していくという視点についても、大変重要である。これまで、地域福祉推進検討委員会において計画の進行管理を実施していただいていたが、次期計画についても、新しい視点などを反映し、都度、見直しをしていくよう努めたい。</p> <p>さて、新しい動きとして話に乗っている生活困窮者自立支援に関して補足すると、地域福祉計画に盛り込む上で、「数値目標」を入れるよう国から示されている。一例として、生活保護受給者数及び今後の増加予想を踏まえ、必要となるケースワーカーの数などが挙げられる。どのような数値を入れるとよいかについては、事務局とも相談しながら、検討しているところである。また、生活困窮者支援は地域からの理解も得にくいものと考えられるので、丁寧に進めていく必要があると考えている。</p>
<p>小室委員</p>	<p>数値目標が入るのは、生活困窮者支援に関することのみ、ということか。他の部分についても、数値を計画の中に盛り込んだ方がわかりやすいのではないか。資料3に「目標基準」というものがあるが、この内容では進捗が測れないように思う。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>数値化できることはしたいという思いは、多くの人の考えだと思う。一方で、数値化がしにくい内容もあり、今後、皆さんと議論をしていきたい。分野別計画では数値目標を設定しているが、これまで、地域福祉計画においてはそれを示すことが難しかった。他にご意見はあるか。</p>
<p>鬼澤委員</p>	<p>これまでに出た意見の中で、声を上げない人を対象として捉えるのは難しいので、まず「声を上げましょう」という働きかけもあってよいと思う。一方で、中には何もなくても支援してもらえという意識もあるのではないか。極端に言えば、声を上げない人は切り捨てるという考え方もあるのではないか。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>地域の中では、障害や子育て等、様々な理由で、自ら声を上げることが難しい人がいるということも考慮しなくてはいけないが、そういった人たちも含め、もっと声を上げられるような環境にしていく必要があるというご意見だと思う。</p> <p>では、議題4について、事務局から説明をお願いしたい。</p>

<p>事務局 (佐藤主査)</p>	<p><u>4. その他</u></p> <p>事務局より、次回以降の委員会開催予定についてご案内した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回：10月31日（金）14～16時（会場：市役所604会議室）</li> <li>・第4回：12月22日（月）または24日（水）で調整中</li> <li>・第5回：2月17日（火）14～16時（会場：市役所604会議室）</li> </ul> <p>また、本日の会議の中でご提案をいただいた作業部会については、日程・会場等を調整し、改めてご案内させていただきたい。</p>
<p>地域計画連合</p>	<p>議題1の中でも説明があったが、9月中に、関係活動団体の方にヒアリングをさせていただきたいと考えており、委員の皆さまにもご協力をお願いしたい。それに先立ち、近日中にヒアリングシートをお送りする予定である。その後、個別にお話しを伺う機会も設定させていただきたいと考えている。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>今後、事務局から、ヒアリングシートの送付があるということなので、対象となる委員の方にはご協力をお願いしたい。また、本日、私から提案させていただいた作業部会についても、追ってご案内がされるので、有志での参加ということになるが、ぜひよろしく願いたい。</p> <p>では、本日の議題についてはすべて終えたので、事務局にお返りする。</p>
<p>事務局 (池田主幹)</p>	<p><b>4. 閉 会</b></p> <p>閉会を宣言した。</p>